

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：82651

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2010～2014

課題番号：22242021

研究課題名(和文) 古代における文字文化形成過程の総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study on the Development of the Writing Culture of the Ancient Japanese Archipelago

研究代表者

平川 南 (HIRAKAWA, Minami)

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構本部・大学共同利用機関等の部局等・理事

研究者番号：90156654

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 35,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の最大の成果は、日本列島における古代の文字文化が、同時代の朝鮮半島の文字文化の影響を強く受けて形成されたことを、具体的な資料を通して明らかにしたことである。本研究の過程で、韓国の国立中央博物館や国立文化財研究所、国立海洋文化財研究所と緊密な連携をとり、各機関との全面的な協力を得ながら、調査研究を円滑に遂行することができた。本研究の上に築かれた日本と韓国の研究者の信頼関係は、今後の研究にも大きな助けとなるであろう。さらに本研究の成果は、国立歴史民俗博物館の国際企画展示「文字がつなく 古代の日本列島と朝鮮半島」に結実し、一般市民にわかりやすい形で広く公開した。

研究成果の概要(英文)：The achievement of the study is that on the basis of the actual materials, it revealed that the development of the writing culture of the ancient Japanese Archipelago was significantly influenced by the writing culture of the Korean Peninsula. In addition, the study involved close collaboration with three institutions in Korea including the National Museum of Korea, the National Research Institute of Cultural Heritage, and the National Research Institute of Maritime Cultural Heritage. The study proceeded effectively with their full support. The mutual trust among the researchers of Japan and Korea built through the study should greatly contribute to future studies. Furthermore, the study led to the special exhibition of the National Museum of Japanese History titled "A Connection of Characters: The Japanese Archipelago and the Korean Peninsula in Ancient Times" in which the achievement of the study was presented to the general public in an accessible and comprehensible manner.

研究分野：日本古代史

キーワード：東アジア 漢字文化 出土文字資料 文化交流

### 1. 研究開始当初の背景

国立歴史民俗博物館では30年にわたり、全国各地からの木簡・漆紙文書・墨書土器・銅印・銭貨などの出土文字資料の調査、古代日本の石碑の複製製作展示、古代荘園図の収集・複製・研究、そして現在も継続中の正倉院文書約800巻の完全複製作業など、古代の文字資料全般についての調査研究を進めてきた。加えて近年、韓国や中国で、木簡や簡牘、石碑資料などの出土文字資料の発見がめざましく、これら東アジアの出土文字資料を取り入れた体系的な古代の文字文化研究を進める必要が生じた。

### 2. 研究の目的

本研究課題の最大の眼目は、古代文字資料についての資料単位の調査実績を踏まえ、東アジア諸国、とくに中国・韓国そして日本における文字資料の比較検討を経て、文字文化の伝播の実態と古代日本における文字文化の全体像を描くことである。これまでは漠然と、中国で生まれた漢字文化が日本列島にもたらされたと考えられていたが、近年、韓国の6～7世紀代の遺跡から出土する木簡や石碑などの検討から、日本列島の文字文化が、朝鮮半島の同時期の文字文化の影響を色濃く受けていることが明らかになってきた。本研究ではこうした近年の動向をふまえて、日本列島における文字文化の形成を、中国や朝鮮半島の具体的な文字資料の検討をふまえて描き出すことを目的とする。

### 3. 研究の方法

具体的には、中・韓・日における書写材料の検討や、文法・発音など字音表記の国語学的分析による古代朝鮮の複雑な実態とその影響を受けた古代日本の実態の解明、文字文化が伝播する上で大きな役割を果たした仏

教・儒教・道教・呪術などの宗教的要素の解明、口頭伝達や木簡・正倉院文書など古代日本の文字文化の全体的な骨格の解明などを切り口に検討を進める。

### 4. 研究成果

2010年度は国内・韓国における出土文字資料の調査研究を中心に行った。国内では、飛鳥地方の7世紀木簡の検討・釈文の再検討を行い、研究会では7世紀木簡研究の課題を抽出した。また、古代近江地域は渡来人が数多く居住し、早くから文字文化が浸透していた地域であることから、滋賀県内の7世紀の古代文字資料(文字瓦・古印・超明寺養老元年碑)の調査を実施した。

韓国では、韓国で初めての地方官衙木簡と考えられる羅州伏岩里遺跡の木簡および出土地の調査を通じ、労働力編成や穀物栽培のあり方など、古代日本にも通じる百済の地方社会および支配の実態が明らかとなった。さらに、韓国国立中央博物館との共同研究として、伝仁容寺址遺跡出土木簡や慶州雁鴨地出土墨書・刻書土器の調査を実施した。また、これらの調査に合わせて、歴博および早稲田大学において韓国古代木簡研究会を定期的に実施し、調査の事前準備及び検討結果の整理を行っている。

また、研究代表者(平川)が20年間におよぶ全国各地の遺跡出土の文字資料調査に伴う文字資料の出土直後における貴重かつ膨大な写真資料について、公開を前提とする画像データ化に着手した。写真資料整理とデータ化の方法と今後の方針を検討し、委託業者を選定し、約1,600枚のデータ化を終了させた。2011年度も引き続き国内・韓国・中国における出土文字資料の調査研究を中心に行った。国内では、九州福岡県の古代文字資料を調査した。大宰府跡・筑後国府・大野城など、福岡県内には古代の官衙遺跡が集中しており、文字資料も豊富である。これらの調査・検討

を通じて古代における東アジアとの窓口として機能していた様相を明らかにした。

韓国では、国立中央博物館において実施された企画展「文字、それ以後—韓国古代文字展」が実施された。本展示では韓国国内の主だった文字資料が集められて展示されており、これにあわせて調査・検討会を実施した。特に石碑の実見調査により、釈文の訂正など成果をあげられた。また、展示期間中に開催されたシンポジウムにも参加するなど、韓国の研究者との意見交換も積極的に行った。また、本年度から中国走馬楼呉簡の本格的な調査に入った。本年度は木簡・木牘を中心に実見調査を行い、概要把握と図版などでは分からない形状などについて細かに観察した。これらの調査報告および新出文字資料についての考察は、研究会を開催して検討を深めている。

さらに、昨年度に引き続き全国各地の文字資料の出土直後における写真資料画像データ化を進めた。本年度は約 1,800 枚のデータ化を終了させた。

2012 年度は 3 年目の中間報告として、研究者のみならず広く市民を対象とした歴博国際シンポジウム「古代日本と古代朝鮮の文字文化交流」を開催した。

シンポジウムでは、韓国国立中央博物館・韓国国立文化財研究所の協力のもと、韓国の考古学・古代史を牽引する研究者からの報告を得た。これらの報告およびシンポジウムでは、韓国における古代木簡の最新成果が公表されたとともに、古代から中世にかけての日韓の文字文化交流の一端を明らかにすることができた。両日とも多数の参加者から意見・質問が出され、古代文字文化に対する関心の深さがうかがわれた。

国内調査にも重点を置いた。福岡県の出土文字資料では、科研メンバーだけではなく九州地方の古代史研究者が多く参加し、調査後の検討会において活発に意見交換が行われた。

調査対象とした太宰府市国分松本遺跡・福岡市元岡遺跡群は、福岡県北部に位置し、古代朝鮮からの文化の窓口となった地域である。これらの遺跡から出土した木簡は 7 世紀後半代のもので、古代国家の諸制度形成を考える上で重要な資料であると位置づけられる。前年度の久留米市・小郡市における資料調査に続き、福岡県内の主要な遺物を網羅的に調査することができた。

2013 年度は韓国の石碑の調査に重点を置き、多くの知見を得ることができた。具体的には、韓国ソウルの国立中央博物館において、古代朝鮮の石碑資料の実見調査を行った。また、慶州の国立慶州博物館においても、博物館所蔵の古代石碑の実見調査、雁鴨池出土資料の実見調査を行った。さらに国立慶州文化財研究所において、伝仁容寺跡出土木簡の実見調査を行った。国内においては、秋田城跡漆紙文書の再検討を通じて、これまで明らかではなかった知見を得ることができた。8 世紀における秋田城の位置づけについては、これを国府とみる説と、国府ではないとする説が対立しているが、これまで、出土文字資料の検討からそのことが論じられたことはほとんどなかった。本年度の漆紙文書の再検討により、あらためて秋田城の位置づけについて議論の素材を提供することが可能になったと思われる。

なお、2012 年 12 月 15 日(土)、16 日(日)にイイノホールで行われた歴博国際シンポジウム「古代日本と古代朝鮮の文字文化交流」をまとめた書籍を、大修館書店から刊行した(国立歴史民俗博物館・平川南編『古代日本と古代朝鮮の文字文化交流』大修館書店、2014 年 3 月)。本書は、研究課題の成果の一つとして位置づけられる。

2014 年度は、これまでの研究の総括として、国立歴史民俗博物館において国際企画展示「文字がつなく - 古代の日本列島と朝鮮半島 - 」を 10 月 15 日から 12 月 14 日までの

会期で実施した。韓国国立中央博物館、韓国国立文化財研究所、韓国国立海洋文化財研究所の全面的な協力のもと、韓国内の出土木簡や古代の石碑などの原品・複製品を数多く借用し、日本列島の古代の文字資料と比較して展示することで、日本列島の古代の文字文化が古代の朝鮮半島の影響を色濃く受けていた様相を明らかにした。会期中には科研のメンバーを講師とする歴博フォーラム「古代東アジアの文字文化交流」を開催し、専門家や一般市民を含め 200 名以上の参加を得た。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 11 件)

平川南「秋田県由利本荘市川口の大覚遺跡出土銅印」新野直吉監修由理柵・駅家研究会編『古代由理柵の研究』(高志書院) 2013 年、257-275 頁、査読無。

犬飼隆「漢字で日本語の物語をつづるための技術」『愛知県立大学 説林』61、2013 年、37 - 49、査読無。

平川南「多胡碑の輝き」『多胡碑が語る古代日本と渡来人』吉川弘文館、2012 年、48 - 76 頁、査読無。

平川南「古代社会と馬 - 東国国府と栗原郷、「馬道」集団 - 」鈴木靖民編『日本古代の王権と東アジア』吉川弘文館、2012 年、99 - 136 頁、査読無。

李成市「羅州伏岩里百済木簡の基礎的研究」鈴木靖民編『日本古代の王権と東アジア』(吉川弘文館) 2012 年、253-271 頁、査読無。

李成市「古代東アジアにおける木簡文化の受容」『東海史学』45、2011 年、3 - 19 頁、査読有。

李成市・尹龍九・金慶浩「平壤貞柏洞 364 号墳出土竹簡『論語』」『出土文献研究』(中国文化遺産研究院、北京) 10、2011 年、174-206 頁、査読有。

犬飼隆「日本漢字音の中の古層」『日本語学』30 - 3、2011 年、査読無。

犬飼隆「天平期の学制改変と漢字文化を支えた人材」『万葉語文研究』6、2011 年、23 - 26 頁、査読有。

平川南「正倉院佐波里加盤付属文書の再検討」『日本歴史』750、2010 年、1 - 15 頁、査読有。

平川南「百済の都出土の『那尔波連公』木簡」『木簡研究』32、2010 年、164 - 168 頁、査読無。

[学会発表](計 10 件)

仁藤敦史「五・六世紀の倭と新羅の交渉 - 多元的「交通」論の試み - 」韓国慶北大国際学術大会『新羅・倭の交流』、慶北大学校グローバルプラザ敬賀ホール(韓国・大邱広域市) 2012 年 12 月 15 日。

小倉慈司「8.9 世紀の内宮と外宮について」国際シンポジウム「転換期の伊勢」、国際日本文化研究センター(京都府京都市) 2013 年 7 月 26 日。

小倉慈司「天皇にとっての律令祭祀」続日本紀研究会例会、アウィーナ大阪(大阪府大阪市) 2013 年 6 月 14 日。

犬飼隆「日本語表記における音訓交用の精錬史」第二回日・韓訓読シンポジウム、麗澤大学(千葉県柏市) 2010 年 12 月 11 日

李成市「8世紀代新羅の対日貿易と正倉院方物」国際学術会議「新羅の対外関係と蔚山港」蔚山大学(韓国・蔚山広域市) 2010年11月20日。

李成市「新羅の出土文字資料について」上古学会、お茶の水女子大学(東京都文京区) 2010年10月30日。

平川南「日本古代の地方木簡と羅州木簡」国際学術大会「6-7世紀栄山江流域と百済」国立羅州文化財研究所(韓国・羅州市) 2010年10月28日。

李成市「韓日古代社会における羅州伏岩里木簡の位置」国際学術大会「6-7世紀栄山江流域と百済」国立羅州文化財研究所(韓国・羅州市) 2010年10月28日。

李成市「木簡を通して見た百済と日本(倭国)の関係」国際学術会議「交流王国、大百済の足跡を尋ねて」忠清南道歴史文化研究院、公州大学校(韓国・公州市) 2010年9月28日。

李成市「竹簡・木簡を通して見た東アジア世界」国際学術会議「『論語』と東アジア」成均館大学校東アジア学院(韓国・ソウル特別市) 2010年8月26日。

[図書](計13件)

国立歴史民俗博物館・小倉慈司編『古代東アジアと文字文化』同成社、2016年、209頁。

小倉慈司編『国立歴史民俗博物館研究報告194集 古代における文字文化形成過程の総合的研究』国立歴史民俗博物館、2015年、351頁。

平川南『律令国郡里制の実像 上巻』吉川弘文館、2014年、396頁。

平川南『律令国郡里制の実像 下巻』吉川弘文館、2014年、409頁。

平川南『出土文字に新しい古代史を求めて』同成社、2014年、218頁。

国立歴史民俗博物館・平川南編『歴博国際シンポジウム 古代日本と古代朝鮮の文字文化交流』大修館書店、2014年、288頁。

犬飼隆・和田明美編『語り継ぐ古代の文字文化』青簡舎、2014年、210頁。

三上喜孝『日本古代の文字と地方社会』吉川弘文館、2013年、335頁。

平川南『東北「海道」の古代史』岩波書店、2012年、202頁

仁藤敦史『古代王権と支配構造』吉川弘文館、2012年、350頁。

石田実洋・小倉慈司『内閣文庫所蔵史籍叢刊 古代中世篇4』汲古書院、2012年、522頁。

犬飼隆『木簡による日本語表記史』笠間書房、2011年、255頁。

小倉慈司・山口輝臣『天皇の歴史09 天皇と宗教』講談社、2011年、414頁。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

平川 南 (HIRAKAWA, Minami)  
人間文化研究機構・理事  
研究者番号：90156654

### (2) 研究分担者

李 成市 (LEE, Sungsi)  
早稲田大学文学学術院・教授  
研究者番号：30242374

犬飼 隆 (INUKAI, Takashi)  
前愛知県立大学文学部・教授  
研究者番号：20122997

小倉 慈司 (OGURA, Shigeji)  
国立歴史民俗博物館准教授  
研究者番号：20581101

仁藤 敦史 (NITO, Atsushi)  
国立歴史民俗博物館教授  
研究者番号：30218234

三上 喜孝 (MIKAMI, Yoshitaka)  
国立歴史民俗博物館准教授  
研究者番号：10331290

### (3) 連携研究者

吉岡 眞之 (YOSHIOKA, Masayuki)  
東京大学史料編纂所・特任教授  
研究者番号：90290858

新川 登亀男 (SHINKAWA, Tokio)  
早稲田大学文学学術院・教授  
研究者番号：50094066

關尾 史郎 (SEKIO, Shirou)  
新潟大学人文社会教育科学系・教授  
研究者番号：7017933

山口 英男 (YAMAGUCHI, Hideo)  
東京大学史料編纂所・教授  
研究者番号：40182456

神野志 隆光 (KOHNOSHI, Takamitsu)  
明治大学大学院・特任教授  
研究者番号：60018900

市 大樹 (ICHI, Hiroki)  
大阪大学大学院文学研究科・准教授  
研究者番号：00343004

安部 聡一郎 (ABE, Soichiro)  
金沢大学文学部・准教授  
研究者番号：10345647

田中 史生 (TANAKA, Fumio)  
関東学院大学経済学部・教授  
研究者番号：50308318

森下 章司 (MORISHITA, Shoji)  
大手前大学人文科学部・准教授  
研究者番号：00210162

寺崎 保広 (TERASAKI, Yasuhiro)  
奈良大学文学部・教授  
研究者番号：70163912

中林 隆之 (NAKABAYASHI, Takayuki)  
新潟大学人文社会教育科学系・准教授  
研究者番号：30382012

高橋 一樹 (TAKAHASHI, Kazuki)  
武蔵大学人文学部・教授  
研究者番号：80300680

小池 淳一 (KOIKE, Jun'ichi)  
国立歴史民俗博物館・教授  
研究者番号：60241452

永嶋 正春 (NAGASHIMA, Masaharu)  
国立歴史民俗博物館・准教授  
研究者番号：50164421

高田 貫太 (TAKATA, Kanta)  
国立歴史民俗博物館・准教授  
研究者番号：60379815